

# 6つの評価項目とその考察

評価項目			庁舎整備（増築棟建設） ＜A案＞	庁舎再配置（旧丹波小の活用） ＜B案＞	備考	考察 (事務局)
大項目	中項目	小項目				
①災害対応	場所	想定浸水深 (24時間 雨量531 mm)	0.5～2m	3～5m	①峰山庁舎 0.5～2m ②峰山総合福祉セン ター 0.5～1m ③大宮庁舎 0～1m	—
		浸水深とそ の影響	・浸水深2mは、建物1階の半分まで浸水 ・浸水深0.5mは、人の膝上まで浸水	・浸水深5mは、建物2階床上40cm程 度まで浸水 ・浸水深3mは、建物1階の天井近くまで 浸水	＜資料2＞京丹後市 防災マップ（抜粋）	A案優位
	建物	災害対策本 部会議の場 所	増築棟2階会議室 対策本部として使用する大会議室と仮眠室 を設置。	(現) 峰山庁舎2階会議室	【災害対策本部の機 能】災害情報の一元 的集約、迅速な意思 決定と災害警戒活動 及び応急対策活動等 災害対策に関する業 務全般を統括	A案優位
		水害への備 え	●増築棟 ・サーバー室は増築棟4階に移転 ・自家発電設備(72h稼働)は増築棟屋 上に設置 ●現・峰山庁舎 ・自家発電設備…敷地内 ・自家発電設備(オイルタンク一体型)の 嵩上げと改修	●現・峰山庁舎 ・サーバー室は(現)峰山庁舎1階 ・自家発電設備…敷地内 ・自家発電設備の嵩上げと地下オイルタン クの新設で72h稼働に改修 ●旧丹波小学校 建物2階の40cmまで浸水。福祉事務所 機能の建物としては不可	サーバー室はコン ピューターの心臓部 の入っている部屋。 近年クラウド化 (データを別の場所 で管理)により縮小 傾向にあり。	A案優位
		地震への備 え	耐震安全性の分類をI類(水平耐力の割り 増しを1.5倍)として整備 ※(現)峰山庁舎は1.0倍	—	国交省がH25に制 定した「官庁施設の 総合耐震・対津波計 画基準」に基づく構 造体の耐震安全性確 保による。	A案優位

# 6つの評価項目とその考察

評価項目			庁舎整備（増築棟建設） ＜A案＞	庁舎再配置（旧丹波小の活用） ＜B案＞	備 考	考察 (事務局)
大項目	中項目	小項目				
②市民の利便性	本庁機能	各庁舎に入る部局 (本庁機能の集約度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●峰山庁舎+増築棟 議会、市長公室、総務、市民、医療、会計、監査、農林、商工、建設、上下水道、農業委員会</li> <li>●大宮庁舎 教育</li> <li>●峰山総合福祉センター 健康長寿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●峰山庁舎 議会、市長公室、総務、市民、医療、会計、監査</li> <li>●峰山総合福祉センター 商工、建設</li> <li>●大宮庁舎 農林、上下水道、教育、農業委員会</li> <li>●旧丹波小 健康長寿</li> </ul>		A案優位
		新たに付加される施設・設備等 (機能アップ度)	<p>＜増築棟施設＞ 相談室（プライバシーに配慮）、談話コーナー、来賓用会議室、各階に多機能トイレを設置。 2階フロアは会議室を集約。ICT環境の整備等多くの市民が利用できる場を創出する。</p>	—		A案優位
	市民局機能		従前どおり6市民局を設置するため利便性に影響なし	従前どおり6市民局を設置するため利便性に影響なし		差なし
	市民にとって利用のしやすさ	市民	本庁に行く機会は少く、本庁機能集約化による利便性の向上なし。	本庁に行く機会は少く、本庁機能集約化による利便性の向上なし。		差なし
事業者		事業課は1カ所に集約。 1カ所で用事が済み、仕事の効率化につながる面あり。	事業課は峰山と大宮の2カ所に集約		A案優位	

## 6つの評価項目とその考察

評価項目			庁舎整備（増築棟建設） ＜A案＞	庁舎再配置（旧丹波小の活用） ＜B案＞	備 考	考察 (事務局)
大項目	中項目	小項目				
③交通アクセス	鉄道、バスの状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>●峰山庁舎+増築棟 峰山駅徒歩約15分、バス停：市役所前</li> <li>●峰山総合福祉センター 峰山駅徒歩約15分、バス停：丹中病院前</li> <li>●大宮庁舎 京丹後大宮駅徒歩約8分、バス停：大宮庁舎前</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●峰山庁舎 峰山駅徒歩約15分、バス停：市役所前</li> <li>●峰山総合福祉センター 峰山駅徒歩約15分、バス停：丹中病院前</li> <li>●大宮庁舎 京丹後大宮駅徒歩約8分、バス停：大宮庁舎前</li> <li>●旧丹波小学校 峰山駅徒歩約9分、バス停：丹波</li> </ul>		差なし
	来庁者用 駐車場	庁舎別台数	<ul style="list-style-type: none"> <li>●峰山庁舎+増築棟 146台</li> <li>●峰山総合福祉センター 62台</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●峰山庁舎 74台</li> <li>●峰山総合福祉センター 54台</li> <li>●旧丹波小学校 63台</li> <li>※グラウンドを整備</li> </ul>	●大宮庁舎 49台	—
		庁舎別職員 数	<ul style="list-style-type: none"> <li>●峰山庁舎+増築棟293人</li> <li>●峰山福祉センター97人</li> <li>●大宮庁舎60人 (合計450人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●峰山庁舎129人</li> <li>●峰山福祉センター63人</li> <li>●大宮庁舎161人</li> <li>●旧丹波小97人 (合計450人)</li> </ul>	※人数は平成28年 当時のもの。	—
	職員用駐車場	庁舎別台数 (公用車含 む場合あり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●増築棟・峰山庁舎 旧吉原小グラウンド 180台</li> <li>丹後文化会館駐車場 300台</li> <li>※庁舎前駐車場は来庁者用に開放</li> <li>●大宮庁舎 152台 (大宮社会体育館、社協前含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●峰山庁舎 150台</li> <li>●旧丹波小学校 104台</li> <li>※グラウンドを整備</li> <li>●大宮庁舎 152台 (大宮社会体育館、社協前含む)</li> <li>※上下水道部の移動により、別途、約60台(職員私用車+公用車)の駐車場が必要となるが、基本計画での計上なし。</li> </ul>	旧峰山幼稚園106台 ※令和元年度整備 福祉事務所の職員駐車場として利用。センター前は来庁者用として利用。	【来庁者】 A案優位 【職員】 B案優位 (遠方の駐車場は、職員互助会によるシャトルバス運行やシェアサイクル等で利便を図ることを検討予定)

## 6つの評価項目とその考察

評価項目			庁舎整備（増築棟建設） ＜A案＞	庁舎再配置（旧丹波小の活用） ＜B案＞	備 考	考察 (事務局)
大項目	中項目	小項目				
④行政の効率的な運営	組織にとっての効率性		①職員は、教育委員会と市民局を除き、峰山庁舎・増築棟、峰山福祉センターに集約化。 ②増築棟の執務室は、間仕切りをなくし将来の組織・機構の変更に柔軟に対応できるものとして整備。	①旧丹波小、大宮庁舎も最大限活用した集約化。 ②職員は、峰山庁舎、峰山福祉センター、大宮庁舎、旧丹波小学校に集約化。事業課は分散する。		A案優位
	地域経済に与える影響 (弁当を持参しない職員は1～2割)		●網野庁舎…商工観光部、建設部(63人) ●丹後庁舎…上下水道部(48人) ●大宮庁舎…農林水産部、農委(53人) →峰山庁舎164人増	●網野庁舎…商工観光部、建設部(63人) →峰山庁舎 ●丹後庁舎…上下水道部(48人) →大宮庁舎	A案=峰山庁舎164人増、B案=大宮庁舎48人増 ※大宮庁舎周辺は徒歩で行ける飲食店なし。	地域経済全体として優位性に影響なし
⑤資金計画	合併特例債の活用		R6年度までの活用が可能	R6年度までの活用が可能		差なし
⑥整備費	本庁機能集約化に係る整備費		38.3億円(実質負担15.8億円) ※議員全員協議会後の追加・参考資料による(H30.8.22時点)。ICTなど庁舎機能の高度化に係る費用など、今後の基本設計により金額は異なります。	24.2億円(実質負担10.1億円) ※議員全員協議会後の追加・参考資料による(H30.8.22時点)。ICTなど庁舎機能の高度化に係る費用など、今後の基本設計により金額は異なります。		B案優位
	将来的な整備費		●峰山福祉センターの老朽化(あと9年で築65年)は、大宮庁舎もしくは増築棟の利用で対応できる可能性あり。	●峰山福祉センターの老朽化(あと9年で築65年)は、新たな(仮設)建物建築の必要性が出てくる可能性あり。 ●旧丹波小学校の老朽化(あと23年で築65年)は、新たな(仮設)建物建築の必要性が出てくる可能性あり。		A案優位

## 各計画のメリット・デメリット

区分	庁舎整備（増築棟建設） ＜A案＞	庁舎再配置（旧丹波小の活用） ＜B案＞
メリット	<p>①増築棟建設により災害に強く利便性の高い庁舎 利用しやすい動線、サイン案内、多機能トイレなど市民の利便性とユニバーサルデザインに配慮し、また、耐震性も十分に備え、サーバ室は免振床。また、浸水対策としてサーバ室は4階、自家発電は屋上に設置し、浸水被害を最小限に抑え、庁舎機能が維持できる設備を設置。</p> <p>②事業者にとっての利便性 複数の部局に用がある場合に、余分な移動時間や移動コストの負担軽減となる。</p> <p>③来庁者用駐車場の確保 来庁者用の駐車場を従来の約2倍となる146台を確保。</p> <p>④職員の庁舎間移動が減り効率的な業務の執行 部局間での協議や打合せなどにかかる移動の無駄が省け効率的な業務執行が図れる。</p>	<p>①イニシャルコスト（建築費の抑制） 増築棟整備と比較して、初期の施設整備経費が抑えられる。ただし、峰山総合福祉センターを建替える場合の整備費を合わせると、実質負担額はA案より上回ることになる。</p> <p>②施設の有効活用 学校再配置により空校舎となった旧丹波小の全面的な活用が図れる。 ※現在、旧新山保育所の放課後児童クラブが施設取壊しのため、緊急避難的にこの場所を実施。</p>
デメリット	<p>①職員駐車場が遠方 庁舎前駐車場は来庁者用に確保し、職員駐車場は丹後文化会館駐車場や旧吉原小グラウンドを利用するため遠方になる。 ただし、職員互助会によるシャトルバス運行やシェアサイクル等で利便を図ることを検討予定。</p>	<p>①旧丹波小学校の想定浸水深 京都府発表の洪水浸水想定区域図では、旧丹波小学校は3m～5mの区域にあり、浸水が2階まで達する可能性があるため、庁舎として改修するにはリスクが大きい。</p> <p>②峰山福祉センターの老朽化への対応 2029年に築65年を迎え、使用に耐えられなくなった場合の建替え、移転等を検討する必要がある。</p> <p>③旧丹波小学校の老朽化への対応 2043年に築65年を迎え、使用に耐えられなくなった場合の建替え、移転等を検討する必要がある。</p>